

## ■□要旨■□

### 1. 自己紹介

経歴:ハーバードビジネススクール経営学博士、マッキンゼー、青山学院大学教授、一橋大学大学院教授等を経、現在、「グローバルアジェンダゼミナール」、「ダボスの経験を東京へ」等を開催。「今後、世界の仕事がどのように変わっていくか」が現在の最大関心事項。

### 2. スキルタレントモビリティ

新興国の若年層密度の高まり、ヨーロッパの失業率問題、アフリカの一次産業不在などのデモグラフィックデータや政治、経済、テクノロジーの動向からもわかるように、今後スキルタレントモビリティが活発になる。

### 3. タスク細分化

ビックデータ分析、パターン化、クラウド化、AI等の更なる進化により、人間とコンピュータのタスクがさらに細分化され、コンピュータ(ロボット)の担当領域が広がる。一方、人間に求められるスキルも国境を越えた人材の活用や流出入の活発化により、より熾烈な競争環境となる。

### 4. HOW TO SURVIVE

#### <個人>

「一社一つのスキルで」という時代ではない。学歴や経歴にとらわれず、自分の強みを知り、それを(雇用)マーケットのニーズとマッチさせる感覚を磨くことが重要。また、(e-learning等を通じ)常にマーケットが必要とする新しいスキルを効率効果的に身につけていく必要あり。

#### <組織>

プロジェクト毎のクラウドソーシングの積極展開(タスクの切り分け、要件定義、評価制度等の試行錯誤は不可避)、高齢者、障害者、女性など制約・制限の多いリソースの有効活用(女性活用というだけでは時代遅れ)、人材育成も優秀人材の社内囲い込みといった発想自体がNG。

## ■□今回の学び ひとことという■□

これからの仕事はどうなるか。タスク的業務は減少、スキルの業務は競争激化、大変厳しい環境。乗り越えるには、(個人)マーケットニーズに即した弛まぬ自分磨き、(組織)組織の壁を越え、世界中の優秀なスキル(人間)やタスク(コンピュータ)を活用した成功体験を、試行錯誤しながら築いていくべし。



■□感想■□ご自身のやりたいこと、信念がとて強く伝わってきた講義でした。講義中、ご自身を表して「帰属意識がない」、「日本人らしくない」というご発言が随所にありましたが、世界的な会議でのファシリテーターとして常に事前準備に最大限の努力・お気遣いをされているお話などを伺い、日本人の強みを生かし、世界で活躍されていらっしゃる、とて日本人らしい方だなという思いを強くしました。